

博物館 自己点検・評価報告書

1-1 理念・目的

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(理念・目的等) ○ センター等の理念・目的・教育目標とその適切性	・現状 博物館では「建学の精神である『権利自由』『独立自治』にもとづき、本大学における学術研究の成果を公開し、ひろく生涯教育に資することを目的とする」という基本理念、そして「刑事部門は、1929年実物教育のため刑事関係資料の収集と展示を目的に創設された『刑事博物館』を前身とし、法と人権のあり方をテーマとする。商品部門は、1951年に伝統的手工業製品(伝統的工芸品)の収集と展示を目的に創設された『商品陳列館』(のち商品博物館)を前身とし、商品を通した生活文化のあり方をテーマとする。考古部門は、1952年に考古資料の保管と展示を目的に創設された『考古学陳列館』(のち考古学博物館)を前身とし、人類の過去と多様性の追究をテーマとする」というように、展示内容に関わる教育目的を掲げている。また、①学内共同利用機関、②国内有数の資料保存機関、③生涯教育機関という3つの機能を果たすべく館の運営にあたっている。 ・長所 各展示部門の教育目的は、それぞれ、人類社会において普遍的な価値を持つもので、来館者に対する明治大学の教育理念を明確に伝えている。 ・問題点 近年では、研究内容の高度化や学習ニーズの専門化に伴い、専門性と総合性の両立を要請される状況があり、また、博物館が学内共同利用機関であることを明確に謳うなど、教育目的のみならず運営理念を反映するよう、公表しているミッションの拡充を考慮に入れる必要が出ている。	●2010年度の教育・研究計画の作成を機会に新しいミッションを成文化する。また、案内リーフレットの更新にともない、全文を掲載する。
○ センター等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性	・現状 上記のミッションは、リーフレット、ガイドブック、ホームページに掲載し周知を図っている。 ・長所 来館者誰もが手に取れる、また、自由に閲覧できる電子媒体上に掲載されている。 ・問題点 特になし。	
(理念・目的等の検証) ・ センター等の理念・目的・教育目標を検証する仕	・現状 教育・研究計画の作成、自己点検評価報告書の作成、『博物館年報』発行などの機会に、再点検をおこなっている。	

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
組みの導入状況	・長所 年間を通じて定期的な検証の機会が発生している。 ・問題点 特になし。	

1-2 理念・目的に基づいた特色ある取組み

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
	・現状 1929年に「刑事博物館」を創設して以来、およそ80年間、博物館は、貴重な学術研究資源を収集・保管し、教育・研究、出版・報道の利用に供している。博物館は、調査研究の成果を社会に還元するため、年間340日以上無料で公開し(特別展は有料の場合あり)、年間6万人以上が来館している。特別展・公開講座等の教育普及事業を活発に展開して、建学理念の高揚、社会貢献に資している。 ・長所 稀少性の高い学術資源を体系的に保管するとともに、学部・大学院、学内外の研究機関等と連携して資料を教育事業に活用し、他大学に類例を見ない活発な博物館事業を展開している。刑事部門は、ユニークな刑事関係資料や全国各地に伝来した古文書を収蔵する。考古部門は、重要文化財4件を含む充実した考古資料を収蔵する。これらを活用した展示事業は、社会の興味関心を引き起こし評価も高い。 ・問題点 刑事・商品両部門は、学術研究動向の変化にともない、学部教育との有機的な連携という面で考古部門に遅れを取ってきた。	●刑事・商品部門においても、「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト、内藤家文書近代資料整理プロジェクト、萩原龍夫旧蔵資料整理プロジェクトなど、学部の教員との共同による教育・研究プロジェクトを立ち上げ、成果を出しつつある。

2 教育研究組織

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ センターなどの組織構成と理念・目的等との関連	・現状 学長の統督の下、理事会の経営戦略との連携をはかり、教職員との連携態勢を全学的に構築するよう努めている。 (1)館長・副館長 館長は、専任教授の中から学長の推薦で大学が任命する。副館長は、館長の推薦と学長の同意で大学が任	学芸員の専門職性の問題については、人事諸制度の問題とも関わるので、研究プロジェクト推進の実践の中でふさわしい処遇のあり方について関係部署との間で調整を図る。

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
	命する。館長は、館務を総括する。副館長は、館長を補佐し、館長に事故ある時はその職務を代行する。任期2年で再任はさまたげない。 (2)社会連携事務室博物館グループ ①専任職員 社会連携事務長指揮・監督の下、博士・修士の学位を持つ学芸員(学芸部門4名、管理部門1名)が博物館の運営にあたっている。 ②非常勤職員(特別嘱託職員・短期嘱託職員・派遣職員) 学芸員資格もしくは専門的職務遂行能力によって採用された6名が学芸部門および管理部門の業務を補助している。特別嘱託職員1名が黒耀石研究センターの管理を担当している。 (3)委員会 ①博物館協議会 学部所属の教員と事務管理職、あわせて18名によって構成されている。年2回、定例の協議会を開催している。協議会委員より選出された4名の教員により資料評価分科会が構成されている。 ②各種委員会 (規程に基づく委員会) ア 明治大学黒耀石研究センター運営委員会 イ 大久保忠和考古学振興基金運営委員会 (ワーキンググループ) ウ 博物館・大学院商学研究科・商学部連携「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会 (4)教員、専門研究者との共同プロジェクト体制 展覧会や収蔵資料整理などは、学芸員、教員、専門研究者による共同研究プロジェクトとして実行している。 (5)研究調査員 専任教職員及び外部の研究者(計6名)が委嘱を受け、展覧会開催や共同研究プロジェクトに参画している。 ・長所 収蔵資料の管理と継承、博物館独自の教育サービスの提供などは、学芸員が専門的知識をもとに日常的運営を遂行している。資料収集や展示品貸借に関わり発生する、他の博物館、官公庁との折衝や書類作成などの業務については、学芸業務の担当者として専任事務職員が配置されていることが円滑な遂行に寄与していると言える。 ・問題点 博物館業務の質を裏付けることになる調査・研究活動に従事する機会の保証など、学芸員の専門職性に関する制度的な裏付けがない。	
・センター等の組織の妥当性を検証する仕組みの導入状況	・現状 特に学芸員の専門職化の問題に関わり、望ましいあり方を検討する機会が持たれている。	●学芸業務以外の業務を専門に担う要員の配属を要請する。

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
	・長所 ・問題点 近年の事業拡大傾向の中においては、専門的職務以外の部分にも業務量の増加傾向が顕著である。	

3 教育内容・方法等

①教育課程等

センター等の教育課程に関する目標		
本学の教育・研究の成果を社会に還元する装置として、博物館のミッションに基づき、生涯教育の最新動向を踏まえた多彩な教育普及事業を展開し生涯教育の充実に資する。また学芸員資格の取得を希望する学生を受託し、充実した博物館施設や体系的な資料を活用した教育普及事業を体験することで、資格取得課程の教育の充実に資する。公開講座等の現状は全学評価の「7 社会貢献」を参照。		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 教育目標を実現するための教育課程の体系的性	・現状 展覧会・講座の企画立案は収蔵資料体系および各種調査研究活動の成果に依拠している。 ・長所 収集目標が明確な収蔵資料体系に連動しており、教育目標は明確である。 ・問題点 特になし。	
高・大の接続に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 学生が後期中等教育から高等教育へ円滑に移行するために必要な導入教育の実施状況	・現状 ・長所 ・問題点	
国家試験につながるのあるカリキュラムに関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 国家試験につながるのあるカリキュラムを持つ学部・学科における、カリキュ	・現状 国家資格である学芸員資格取得課程の館務実習の場として活用されている。	

ラム編成の適切性	・長所 最新の施設・設備を活用した実習が実現している。 ・問題点 特になし。	
----------	---	--

インターンシップ及びボランティアに関する目的・目標

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
・ インターンシップを導入している学部・学科等における, そうしたシステムの実施の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
・ ボランティア活動を単位認定している学部・学科等における, そうしたシステムの実施の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	

授業形態と単位に関する目標

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 各授業科目の特徴・内容や履修形態との関係における, その各々の授業科目の単位計算方法の妥当性	・現状 ・長所 ・問題点	

単位互換、単位認定に関する目標

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 国内外の大学等での学修の単位認定や入学前の既修得単位認定の適切性(大学設置基準第28条第2項, 第29条)	・現状 ・長所 ・問題点	

[締結している単位互換協定]

締結先大学等名称	締結年月日

[単位互換協定に基づく単位認定の状況]				
学科	認定人数	認定単位数		一人あたり平均 認定単位数
		専門科目	専門以外	

開設授業科目における専・兼比率に関する目標

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 全授業科目中、専任教員が担当する授業科目とその割合 ○ 兼任教員等の教育課程への関与の状況	・現状 ・長所 ・問題点	

社会人学生、外国人留学生等への教育上の配慮に関する目的・目標

大学施設の開放を推進し、全ての人に優しい開かれた博物館施設となることを実現するため、さまざまなバリア・フリー化を推進する。

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
・ 社会人学生、外国人留学生、帰国生徒に対する教育課程編成上、教育指導上の配慮	・現状 社会人への教育機会の提供のため、土曜・日曜・祝日の開館を行っている。 実物の資史料やグラフィック・パネルを用いたビジュアルな展示によって、日本の歴史や文化に対する理解を促す伝達手法は、万国共通の博物館展示となっている。サイン表示類も英語表記を設け、英語・中国語・韓国語のリーフレットを作成している。 ・長所 入館者の動線や視線計画に配慮したわかりやすい展示で日本の歴史や文化を紹介し、外国人の一般来館者も増加している。 ・問題点 展示部門において、外国語表記が一部分にとどまっているので充実させる必要がある。また、英語表現の稚拙さが指摘されている。	●印刷物については、和文・英文併記とするなど、外国語表記の充実につとめる。英語表現について専門家に依頼して校訂作業をおこなう。

②教育方法等

教育効果の測定に関する目標

実施した教育普及事業について、第3者の視点による効果測定を実施する。

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
---------	--------	-------------

○ 教育上の効果を測定するための方法の有効性	・現状 来館者によるアンケート記入，学生・教職員や博物館友の会会員が参加した「自己点検・評価の集い」，特別展の検証会などを開催し，教育効果の測定に努めている。また，博物館友の会から常に改善点の指摘を受けられるよう，連絡会議を月1回開催している。改善方法の策定については，週1回の専任職員による定例会議で検討している。 ・長所 多様な来歴を持つ参加者の下，多角的な意見の反映を図ることができる。 ・問題点 博物館の専門家による評価の機会が乏しい。	●アンケート用紙の回収率向上を図るとともに，点検・評価活動により多くの人々が参加できるよう広報・周知に努める。また，専門家による評価方法の構築に着手する。
○ 卒業生の進路状況	・現状 ・長所 ・問題点	

成績評価法に関する目標

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 厳格な成績評価を行う仕組みと成績評価法，成績評価基準の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
○ 履修科目登録の上限設定等，単位の実質化を図るための措置とその運用の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
○ 各年次及び卒業時の学生の質を検証・確保するための方途の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	

履修指導に関する目標

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 学生に対する履修指導の適切性	・現状	
○ 留年者に対する教育上の措置の適切性	・長所 ・問題点	

・科目等履修生， 聴講生等に対する 教育指導上の配慮 の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	

教育改善への組織的な取り組み（FD）に関する目的・目標

講座の開催にあたっては，受講者にアンケート調査をおこない，講義内容の向上，講座企画の立案に役立てる。

点検・評価項目	現状（評価）	問題点に対する改善方策
○ 学生の学修の活性化と教員の教育指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み（ファカルティ・ディベロップメント（FD））およびその有効性	・現状 講座の開催にあたっては，受講者にアンケートを依頼している。 ・長所 ・問題点 特になし。	
○ シラバスの作成と活用状況	・現状 ・長所 ・問題点	
○ 学生による授業評価の活用状況	・現状 ・長所 ・問題点	
・卒業生に対し， 在学時の教育内容・方法 を評価させる仕組みの導入 状況	・現状 ・長所 ・問題点	
・教育評価の成果を教育改善に直結させるシステムの確立状況とその運用の適切性	・現状 公開講座の担当者は受講者アンケートに目を通し，講座内容の改善に役立てている。 ・長所 ・問題点 特になし。	

授業形態と授業方法に関する目標

実物資料の提示が博物館教育の特徴である。抽象概念の伝達にとどまらず，「視覚」「聴覚」「嗅覚」「触覚」に訴え，五感で体感できる教育形態がメリットを引き出す。公開講座での実物資料活用を促進し，映像・音響などのメディアミックスによるリアリティある教育手法を実現する。

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性	・現状 実物資料の提示が、博物館の教育事業を特色あるものとしている。また、入門講座等は、AV教室を利用して、ビデオ上映、写真・図版の投影、パソコン画面の拡大投影によるメディアミックス型の講義を実施している。 ・長所 ビジュアル性の向上、五感に訴える情報提供により、観察力・思考力の向上など学習効果を高めることができる。 ・問題点 特になし。	
○ 多様なマルチメディアを活用した授業の導入状況とその運用の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
○ 「遠隔授業」による授業科目を単位認定している大学・学部等における、そうした制度の運用の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	

③国内外との教育研究交流

国内外との教育研究交流に関する目標		
博物館は、国際的な評価を得て学术交流に資するような学術資料を収蔵している。展覧会や研究交流を通して資料の活用を図り、国際交流の推進に資する。		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性	・現状 近年では、韓国国立忠北大学校との共催による特別展(2004年度)を開催しており、2009年度には中国福建博物院との共催による特別展を準備している。また、海外からの視察団の見学に対応している。 ・長所 国際的な学术交流において注目される学術資料が収蔵されており、海外からの出展要請もある。 ・問題点 博物館単独で積極的に国際的事業を準備するのは予算的にも人員配置的にも容易ではない。また、所属員は個々に海外の先進的な博物館事業の事例見聞などに努めているが、組織的にこれを進める必要がある。	学部や国際交流関係部署との連携によって、博物館を利用した国際交流事業が実現するよう、はたらきかけをおこなう。また、所属員による海外の博物館事業の調査・研究の機会を探る。
・ 国際レベルでの教育研究交流を緊	・現状	

密化させるための措置の適切性 ・国内外の大学との組織的な教育研究交流の状況	・長所 ・問題点	
--	-------------	--

4 学生の受け入れ(略)

5 学生生活

学生支援に関する目標		
博物館資料およびそれに関連する専門的な事項について研究しようとする者に対して、積極的な支援をおこなう。		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(学生への経済的支援) ○ 奨学金その他学生への経済的支援を図るための措置の有効性、適切性 ・ 各種奨学金へのアクセスを容易にするような学生への情報提供の状況とその適切性	・ 現状 考古学・博物館学を研究する大学院生・一般社会人を対象として、研究奨励基金事業をおこなっている。情報提供については、関連分野を担当する本学教員、卒業生のネットワークを活用している。 ・ 長所 奨励対象が明確化されており、若手研究者にとっては将来の研究費取得のトレーニングとして格好の機会となっている。 ・ 問題点 特になし。	
(学生の研究活動への支援) ・ 学生に対し、研究プロジェクトへの参加を促すための配慮の適切性 ・ 学生に対し、各種論文集およびその他の公的刊行物への執筆を促すための方途の適切性	・ 現状 収蔵資料の閲覧と研究への活用について、求めに応じ指導・助言をおこなっている。『博物館研究報告』への投稿機会を設けている。収蔵資料の整理作業などは学部との共同事業に位置付け、院生・学生の参加を促している。 ・ 長所 資料情報に通じた専門的職員による指導・助言の機会は適切な対応方法である。また、『研究報告』は審査制を採用しているが、それ自体が指導・助言の体制として適切に機能している。 ・ 問題点 特になし。	
学生相談に関する目標		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(生活相談等) ○ 学生の心身の健	・ 現状 ・ 長所	

康保持・増進及び安全・衛生への配慮の適切性 ○ ハラスメント防止のための措置の適切性	・問題点	
・生活相談担当部署の活動の有効性 ・生活相談、進路相談を行う専門のカウンセラーやアドバイザーなどの配置状況 ・不登校の学生への対応状況	・現状 ・長所 ・問題点	
・学生生活に関する満足度アンケートの実施と活用状況	・現状 ・長所 ・問題点	

就職指導・キャリア形成支援に関する目標

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(就職指導) ○ 学生の進路選択に関わる指導の適切性 ○ 就職担当部署の活動の有効性	・現状 ・長所 ・問題点	
・学生への就職ガイダンスの実施状況とその適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
・就職統計データの整備と活用状況	・現状 ・長所 ・問題点	

課外活動支援に関する目標

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(課外活動) ○ 学生の課外活動に対して大学として組織的に行っている	・現状 ・長所	

る指導，支援の有効性	・問題点	
・資格取得を目的とする課外授業の開設状況とその有効性	・現状 ・長所 ・問題点	
・学生代表と定期的に意見交換を行うシステムの確立状況	・現状 ・長所 ・問題点	

6 研究環境

研究活動に関する目標

展覧会の開催や収蔵資料管理にあたって調査・研究は不可欠であり，それらの事業の推進にあたっては，教員をまじえた共同研究プロジェクトとして実行するなど，研究的な質の向上に努める。学芸員は，業務遂行上必要なスキルアップのため，調査・研究活動をおこなう。

点検・評価項目	現状（評価）	問題点に対する改善方策
（研究活動） ○ 論文等研究成果の発表状況	・現状 学芸員は、『博物館研究報告』や学会誌・研究書に論文等を発表している。また，勤務時間外にも調査研究活動に積極的に従事し，専門分野の学会に所属し研究成果を発表している。 ・長所 学芸員は事務職採用であるが，調査研究活動に対応する資質を持つ専任職員が配置されている。 ・問題点 博物館の調査研究活動は，法令や博物館規程の中にも明文化されているが，事務分掌内規には明記されておらず，制度的に保証されていない。	調査研究活動は，学芸業務を遂行するスキルを維持するために不可欠である。研究推進の活性化に関連して 2008 年度には学長にも上申書を提出しているが，学芸員の専門職としての制度的な確立を，関係部署と連絡・調整を取りながら検討する。

[2008 年度の発表件数] ※業績数は後日研究知財からデータ提供 (単位：件)

学科等	学芸員数	研究業績				博士学位授与数
		研究論文等	著書	学会発表	褒賞	
博物館	5	8	1(共著)	1		
合計	5	8	1	1		

・国内外の学会で	・現状	
----------	-----	--

の活動状況 ・当該学部・研究科として特筆すべき研究分野での研究活動状況 ・研究助成を得て行われる研究プログラムの展開状況	学芸員はそれぞれ専門研究に関する学会に所属し、研究活動に従事している。 2008 年度においては、学芸員 1 名が、ロシア・アルタイにあるロシア科学アカデミーのデニソワ洞穴考古キャンプにおいて開催された、オクラドニコフ生誕 100 周年記念国際シンポジウムにおいて、2008 年度科研費基盤研究(C)に基づく研究成果を口頭発表した。 ・長所 ・問題点 特になし。	
(研究における国際連携) ・国際的な共同研究への参加状況 ・海外研究拠点の設置状況	・現状 ・長所 ・問題点	
(教育研究組織単位間の研究上の連携) ○ 附置研究所を設置している場合、当該研究所と大学・大学院との関係 ・大学共同利用機関、学内共同利用施設等とこれが置かれる大学・大学院との関係	・現状 本学と長野県長和町の「明治大学及び長門町における社会連携事業の推進に関する協定書」(2006 年 6 月 30 日締結)に基付き、明治大学黒耀石研究センターを拠点として協定事業が推進されている。 学内共同利用機関として、特別展示室を、国際日本学部、明治大学史資料センター、学術フロンティア推進事業「日本古代文化における文字・図像・伝承と宗教の総合的研究」による展覧会の利用に供し、教育・研究の成果を社会還元することができた。 ・長所 ・問題点 分館は特別嘱託職員 1 名が配置されているのみで、積極的な教育・研究への活用を図るには充分ではない。	● 研究プロジェクト推進計画の策定に合わせ、必要な人員配置を関係各部署に折衝する。
(経常的な研究条件の整備) ○ 個人研究費、研究旅費の額の適切性 ○ 教員個室等の教員研究室の整備状況 ○ 教員の研究時間を確保させる方途の適切性 ○ 研究活動に必要な研修機会確保のための方策の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	

○ 共同研究費の制度化の状況とその運用の適切性	・現状 ・長所 ・問題点																										
（競争的な研究環境創出のための措置） ○ 科学研究費補助金および研究助成財団などへの研究助成金の申請とその採択の状況 ・ 基盤的研究資金と競争的研究資金のバランスとそれぞれの運用の適切性	・現状 2008 年度は 2 名の学芸員が科学研究費補助を申請し、採択された。 ・長所 ・問題点 申請は学芸員としての立場ではなく、兼任講師及び文学部の学術フロンティア推進事業の研究分担者・協力者の立場で申請したものである。	● 学芸員の立場で申請が可能となるよう、関係部署に理解を求める。																									
[科学研究費補助金などの申請・採択状況] （単位：件）																											
<table><tr><th>年度</th><th>職員数</th><th>新規申請件数</th><th>新規採択件数</th><th>職員一人あたり採択件数</th></tr><tr><td>2005 年度</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2006 年度</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2007 年度</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2008 年度</td><td>5</td><td>2</td><td>2</td><td>0.4</td></tr></table>	年度	職員数	新規申請件数	新規採択件数	職員一人あたり採択件数	2005 年度					2006 年度					2007 年度					2008 年度	5	2	2	0.4		
年度	職員数	新規申請件数	新規採択件数	職員一人あたり採択件数																							
2005 年度																											
2006 年度																											
2007 年度																											
2008 年度	5	2	2	0.4																							
（研究上の成果の公表、発信・受信等） ・ 研究論文・研究成果の公表を支援する措置の適切性 ・ 国内外の大学や研究機関の研究成果を発信・受信する条件の整備状況	・現状 『博物館研究報告』をはじめ、博物館の刊行物に研究成果を発表している。 国内外の大学や研究機関、文化財担当の官公庁から研究成果として刊行物の寄贈を受けている。 ・長所 『博物館研究報告』は審査制を採用し、博物館が主宰する研究プロジェクトに参画する教員・大学院生に門戸を開いている。 寄贈を受けた刊行物は、図書館データベースに登録し、学術情報として学内に共有している。 ・問題点																										
（倫理面からの研究条件の整備） ・ 研究倫理を支えるためのシステムの整備状況とその適切性 ・ 研究倫理に係る	・現状 ・長所 ・問題点																										

学内審議機関の開設・運営状況の適切性		
--------------------	--	--

7 社会貢献

社会貢献に関する目標				
全学報告書に記載。				
点検・評価項目	現状(評価)			問題点に対する改善方策
(社会への貢献) ○ 社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度 ○ 公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況 ○ 教育研究の成果の社会への還元状況	・現状 ・長所 ・問題点			
[公開講座の開設状況] ※シンポジウム、講演会は含めない。公開講座とは、授業に匹敵する学習機会を提供するもの。				
年度	年間講座数	募集人員	参加者	平均受講者数
2006 年				
2007 年				
2008 年				
○ 国や地方自治体等の政策形成への寄与の状況	・現状 ・長所 ・問題点			
○ 大学の施設・設備の社会への開放や社会との共同利用の状況とその有効性	・現状 ・長所 ・問題点			
(企業等との連携) ・企業と連携して社会人向けの教育プログラムを運用している大学・学部における、そうした教育プログラムの内容とその運用の適切性 ・寄附講座、寄付研究部門の開設状況	・現状 ・長所 ・問題点			

況 ・ 大学と大学以外の社会的組織体との教育研究上の連携策 ・ 企業等との共同研究, 受託研究の規模・体制・推進の状況 ※以下、知財機構のみ対象 ・ 特許・技術移転を促進する体制の整備・推進状況 ・ 「産学連携に伴う利害関係の衝突」に備えた産学連携にかかるルールの明確化の状況 ・ 発明取り扱い規程, 著作権規程等, 知的資産に関わる権利規程の明文化の状況		
---	--	--

8 教員組織（略）

9 事務組織

事務組織に関する目標		
収蔵資料の管理, 展覧会の開催, 教育普及事業の推進にあたっては, 学芸員の役割が不可欠である。教育研究支援職員として専門的職務をつかさどる学芸員の恒常的なスキルアップを図り, 教職員と学芸員との密接な連携により, 教育研究事業を企画・立案・遂行する方策を策定する。		
点検・評価項目	現状（評価）	問題点に対する改善方策
（事務組織の構成） ○ 事務組織の構成と人員配置	・ 現状 博物館の事務組織は教育研究組織と一体である。詳細は「2 教育研究組織」参照 ・ 長所 ・ 問題点	「2 教育研究組織」参照
（事務組織と教学組織との関係） ○ 事務組織と教学組織との間の連携協力関係の確立状況 ○ 大学運営における, 事務組織と教学組織との有機的一体性を確保させる	・ 現状 「2 教育研究組織」参照 ・ 長所 ・ 問題点	「2 教育研究組織」参照

方途の適切性		
(事務組織の役割) ○ 教学に関わる企画・立案・補佐機能を担う事務組織体制の適切性 ○ 学内の意思決定・伝達システムの中での事務組織の役割とその活動の適切性 ○ 国際交流等の専門業務への事務組織の関与の状況 ○ 大学運営を経営面から支えるような事務機能の確立状況	・現状 収蔵資料の管理、博物館独自の教育サービスの提供など、恒常的な運営は、専門的職務をつかさどる学芸員の役割に負うところが大きい。 ・長所 学芸員は専門的職務の遂行能力を備え、必要なスキルの向上、機能の強化に取り組んでいる。 ・問題点 学芸員について専門職としての制度的保証がない。調査・研究のための時間や設備には制約があり、個人的負担に委ねられる部分も大きい。また、展覧会準備や研究プロジェクトのコーディネートにおいては、中長期的な継続事業として関与する必要がある。	引き続き、学芸員の専門性を向上させ、博物館事業へ反映させる。研究推進の活性化に関連して2008年度には学長にも上申書を提出しているが、専門職としての制度確立に関しては関係部署との調整を進め、事業の継続性を保証するための方策を検討する。
(スタッフ・ディベロップメント(SD)) ○ 事務職員の研修機会の確保の状況とその有効性 ・ 事務組織の専門性の向上と業務の効率化を図るための方途の適切性	・現状 総務部が主宰する職員研修に参加するとともに、日本博物館協会などが主催する、博物館運営の専門性に関わる研修会に参加している。 ・長所 専門機関の主催する研修会において、最新の成果を吸収する機会がある。 ・問題点 業務との兼ね合いで研修機会を得られないケースがある。	● 早期に研修日程等の情報を把握し、業務上のスケジュールとの折り合いを付けるなど、現在の人員配置で可能な努力をはらう。

10 施設・設備等

施設・設備に関する目標		
2004年4月1日の新博物館開館により、施設・設備面で飛躍的な充実をみた。あらゆる人々に開かれた施設を実現するため、施設の運用段階で発見された課題を随時解消するよう努力する。		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(施設・設備等の整備) ○ センター等の目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性 ○ 教育の用に供する情報処理機器などの配備状況 ・ 記念施設・保存建物の管理・活用状況	・現状 (1)収蔵室 収蔵資料の特質に応じて最適な条件を設定し、望ましい保存環境の維持に努めた。 (2)展示室 安全で快適な室内環境を維持し、随時、照明器具・サイン表示類を更新し、整備した。 (3)図書室 安全で快適な室内環境の維持に努めた。受付ボランティアが入退出管理を担当し、閲覧席や書架の秩序を維持した。 (4)その他 各室の温・湿度を測定し、環境条件の向上に努めた。館の所在がわかりにくいという指摘に対し、屋外バナー	温湿度調整については、中央監視室との間で調整を図り、必要に応じて除湿機の設置を要請する。

	サインを掲出した。 ・長所 ・問題点 一部施設の温湿度調整が不十分である。	
(先端的な設備・装置) ・先端的な教育研究や基礎的研究への設備面の整備の適切性 ・先端的教育の用に供する機械・設備の整備・利用の際の、他の大学院、大学共同利用機関、附置研究所等との連携関係の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
(キャンパス・アメニティ等) ○ キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況 ○ 「学生のための生活の場」の整備状況 ○ 大学周辺の「環境」への配慮の状況	・現状 ・長所 ・問題点	
(利用上の配慮) ○ 施設・設備面における障がい者への配慮の状況	・現状 博物館は不特定多数の来館者への対応が必要である。館内の段差を解消したバリアフリー化を実現、身体障害者・高齢者用の車イス、乳幼児用のバギーを用意し、要所に点字ブロックを設置したほか、誰でも使用できる多目的トイレを設置している。 ・長所 ・問題点 特になし。	
(組織・管理体制) ○ 施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況 ○ 施設・設備の衛生・安全を確保するためのシステムの整備状況	・現状 建物の保守・管理を担当する中央監視室(専門業者へ業務委託)と協力し、良好な環境の維持・管理に努めている。 防災・警備を担当する防災センター(専門業者へ業務委託)と協力し、監視カメラを設置して不測の事態や不審者をモニターするとともに、感熱器・煙感知器があり、火災発生の感知に備えている。 博物館は、本学の防災体制において第3消防小隊第2	

	班として編成され、定期的に防災訓練・避難誘導訓練を実施している。火災発生時は、自動的に作動する消防・防火設備が設置されている。 ・長所 保守・管理の専門業者と現場担当者による二重の管理体制が組織されている。 ・問題点	
--	---	--

11 図書および電子媒体等（略）

12 管理運営（略）

13 財務（略）

14 自己点検・評価

自己点検・評価に関する目標		
公共的機関として博物館事業の適正化のため、博物館全般において外部評価が注目されている。外部評価にたえうる博物館運営を目指し、自己点検・評価活動を推進する。		
点検・評価項目	現状（評価）	問題点に対する改善方策
（自己点検・評価） ○ 自己点検・評価を恒常的に行うための制度システムの内容とその活動上の有効性 ○ 自己点検・評価の結果を基礎に、将来の充実に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性	・現状 自己点検・評価委員会を組織し、報告書を作成している。 一般来館者にも開かれた博物館事業の検証会を実施し、博物館友の会会員などから多様な質問・要望を受けた。 館内にアンケート用紙を配置し、来館者の要望を調査している。 ・長所 外部者の参加により、利用者の視点に立った評価機会が設けられている。 アンケートの文面と回答を館内に掲示し、来館者・館員相互の意見共有を図っている。 ・問題点 公器としての博物館の性格を考慮すると、より多くの人々が点検・評価事業に関わる必要がある。	●一般来館者にも開かれた評価・点検機会の広報に力を入れる。
（自己点検・評価に対する学外者による検証） ○ 自己点検・評価結果の客観性・妥当性を確保するた	・現状 利用者の視点からの評価として、博物館友の会から改善点の指摘を受けられるように、定例的に連絡会議を開催している。 ・長所	博物館の専門家による評価機会を実現する。公的な認証として、東京都教育委員会による博物館相当施設認定を受けるため、登録申請の準備を継続する。

めの措置の適切性 ・ 外部評価を行う際の、外部評価者の選任手続の適切性 ・ 外部評価結果の活用状況	普段から博物館利用頻度の高い人々の目から、他館との比較を含めた多様な評価が得られる。 ・問題点 博物館の専門家による評価機会が少ない。	
(大学に対する社会的評価等) ・センター等の社会的評価の活用状況 ・ 自大学の特色や「活力」の検証状況	・現状 報道機関による紹介記事、収蔵資料の掲載実績などは広報紙に掲載するとともに、館内にも掲示を出してアピールしている。 ・長所 収蔵資料の特性から、特色ある博物館として報道されることが多い。 ・問題点 評価状況自体は、広報紙やホームページなどでさらに周知を図る必要がある。	広報紙やホームページなどでさらに周知を図る。
(大学に対する指摘事項および勧告などに対する対応) ○ 文部科学省からの指摘事項および大学基準協会からの勧告などに対する対応	・現状 特に指摘事項・勧告はない。 ・長所 ・問題点	

15 情報公開・説明責任

情報公開・説明責任に関する目標		
事業内容に関する情報公開は、公器としての博物館にとって責務の一つであり、改善に向けて外部評価を受け入れるためにも、積極的に情報公開策を講じる。		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(財政公開) ○ 財政公開の状況とその内容・方法の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
(情報公開請求への対応) ○ 情報公開請求への状況対応とその適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
(点検・評価結果の発信) ○ 自己点検・評価結果の学内外への発信状況とその適切性	・現状 大学の自己点検・評価活動の中で点検・評価をおこない、結果は大学ホームページで公表されている。1994年度以降、年度ごとに『博物館年報』を刊行し、学外の関係各機関に対して前年度の事業に関する総括を報告している。	引き続き『博物館年報』の内容的充実努めるとともに、博物館の望ましいあり方について点検項目を策定し、評価を『博物館年報』や広報紙に掲載することを検討する。

○ 外部評価結果の 学内外への発信状 況とその適切性	・長所 ・問題点 現在の自己点検・評価のフォームは大学に対する評価 項目となっており、博物館としては独自の評価方法も必 要と考えられる。	
---	---	--